

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	インターネット社会論		
担当者(Instructors)	宮城 エステバン	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択
実務家教員科目(Pro teacher course)			

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本コースでは、インターネットの歴史や技術進化、社会・ビジネスへの影響を分析し、セキュリティやプライバシー問題などの課題にも焦点を当てます。AI、IoT、ブロックチェーン、メタバースなど最新技術を通じてインターネットの未来の可能性を探り、新しいビジネスモデルや機会の創出について学びます。受講生は、インターネットが世界をどのように変革してきたかを理解します。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式 1. プレゼンテーション (スライド、動画、ケーススタディーなどを用いる) 講義形式 2. 実社会の事例 講義形式 3. 教室でのグループ・ディスカッション、グループ・ワーク なお、必要に応じてメディア授業(オンデマンドもしくはオンライン)で実施する場合があります。
当該科目と実務との関係(Relationship between course and practice)	IT外資系企業および日系企業における30年以上の実務経験をもとに、本講義ではベンチャー企業、大企業、スタートアップの立ち上げから縮小(ダウンサイジング)に至るまで、さらに国際ビジネスや複数の大陸での経験を交えた幅広い知見に基づいた授業を展開します。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	学期を通じた学習の概略と目的を理解する。注意事項。自己紹介。	<input type="checkbox"/>
第2回	インターネットとは? インターネットの前はどんな通信世界だった? インターネットと軍・大学の関係	インターネットの仕組み(技術・ビジネス・社会現象・歴史)を理解する	<input type="checkbox"/>
第3回	インターネットビジネスの誕生(会社の上場・次々億万長者の誕生)	小テスト。インターネットビジネスの仕組みを理解する	<input type="checkbox"/>
第4回	ネットワーク・コンピュータ・ソフトウェアの進化・WWWの誕生。	小テスト。インターネットビジネスの仕組みを理解する	<input type="checkbox"/>
第5回	ハッカーの誕生: 情報セキュリティー	小テスト。情報セキュリティーを理解する	<input type="checkbox"/>
第6回	ダークウェブ(Dark web)の誕生	小テスト。ダークウェブ(Dark web)を理解する	<input type="checkbox"/>
第7回	中期レビュー	これまでの講義内容を総括する	<input type="checkbox"/>
第8回	IoT: 全てが繋がっています。つながっている社会: 家電・街・車・家電	小テスト。IoTを理解する	<input type="checkbox"/>
第9回	インターネットのベンチャー企業のチャレンジ	小テスト。インターネットベンチャー企業のビジネスを理解する	<input type="checkbox"/>
第10回	インターネットのダークビジネス: ギャンブル・アダルト・違法グッズ	小テスト。インターネットのダークビジネスを理解する	<input type="checkbox"/>
第11回	インターネットとAI	小テスト。AIを理解する	<input type="checkbox"/>
第12回	インターネットの未来	小テスト。インターネットの未来を理解する	<input type="checkbox"/>
第13回	SNS・アプリ市場の分析	小テスト。SNS・アプリ市場の分析を理解する	<input type="checkbox"/>
第14回	世界各国のインターネット	小テスト。世界各国のインターネットを理解する	<input type="checkbox"/>
第15回	まとめ	これまでの講義内容を総括する	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前に講義で学習するテーマおよび内容を確認しておく。事後は、配布資料や講義で学んだ内容を振り返り復習をしておく(毎週4時間程度)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出されたレポート・課題は、採点の上で返却します。筆記試験・テストは、解説とともに解答例を提示します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	インターネットの歴史・技術の仕組みを理解して説明ができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験とは出席点ではありません。課題の提出状況とその内容、講義テーマの理解度によって評価を行います。本講義の出席は、各回の課題提出の期日順守をもって認定されます。出席点は総評点の30%です。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ありません。スライドと配布資料を用意します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	令和6年版情報通信白書 令和6年7月 https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/r06.html	
2		
3		
4		
5		